

# はじめに

## —— 発刊に寄せて

わが国は、戦後のベビーブームによってもたらされた人口ボーナスの時代に世界が目を見はる高度成長を成し遂げ、この時代に設計された医療・福祉の制度に介護の制度が加わり、国民皆保険に代表される安定した社会が作り上げられてきた。しかし、その後の経済成長の停滞と世界最速のスピードで進行する少子高齢化時代を迎え、作り上げられてきた医療・介護・福祉の体系が持続可能であるかの疑問が提議されている。

そのような中で、医学の進歩は目覚ましく、新たな医療技術や薬物により、今まで治療不能とされていた疾患が次々と治療可能となってきている。そして、これらの新規の医療技術や薬物はきわめて高額なものであることが多い。高齢者への治療もその年齢限界を急速に押し上げている。

さらに、個々人の価値観も時代が経るごとに年々その多様性が増してきている。

このような状況を背景に、目の前の患者さんに誠実に向き合えば向き合うほど、「公平さ」「公正さ」「正しさ」などにおいて、ジレンマに陥る場合がますます多くなっている。赤十字病院の職員は、特に赤十字社の理念に影響されて、誠実に役割を果たそうとする職員が多いと思われる。

このジレンマに苦しむ職員を、一人で悩む状況に置かず、病院のシステムとして一緒に考え、一緒に悩み、一步一步前に進むことが、誠実な病院の姿勢として求められている。

名古屋第二赤十字病院の臨床倫理コンサルテーションチームは、まさにこの役割を果たしてきた。わが国のパイオニアに位置している。本チームの活動をまとめた本書が、他の赤十字病院ばかりでなく、多くの病院での、臨床倫理コンサルテーションの活動の大きな助けになると確信する。

医療の現場で誠実に取り組んでいる人々が、一人で苦しむことがないように、この臨床倫理コンサルテーションシステムが広く病院に、そして介護を含む地域の医療現場に拡がり、整備されることを祈念している。

2021年6月

日本赤十字社 副社長  
富田博樹